

2010年3月期 第3四半期決算 決算説明会

質疑応答要旨

Q. CSKホールディングスとの業務提携に関する今後のスケジュールと、事業シナジー効果について教えてください。

A. 現在、両社の経営陣を中心に業務提携委員会を組織し、相当数の各種協業事業プロジェクトを検討しており、幾つかのプロジェクトについては、現場の事業部門のリーダーにて具体的なとり進めの検討を開始している。両社の顧客群は製造、流通、金融業等であるなど、同様の業種を狙いつつさまざまな事業活動を行っているため、処々の事業シナジーが生まれるものと期待している。現時点では、業務提携の実をあげるべく個別の協業プロジェクトの検討をしている段階とご理解いただきたい。

Q. CSKホールディングスとの提携検討は資本提携を含めたものと理解しているが、資本提携についての進捗も教えてください。

A. 既に公表している通り、CSKホールディングスとは資本提携についても検討を開始している。資本提携、業務提携は、表裏一体のものと考えおり、厳しい現在の経済環境下においては事業をしっかりと立ち上げることが先決であり、まずは業務提携に関して議論を進めている。

Q. 2009年度1-3月（第4四半期）の工事進行基準の影響について教えてください。

A. 第4四半期における工事進行基準の影響は、第3四半期における同基準の影響48億円（ソフトウェア開発45億円）より減少する見通しである。考え方としては従来よりご説明の通り、前年度の各四半期における仕掛残高が、本年度の各四半期における工事進行基準の影響額を見積もる上での指標となる。その視点で考えると、期末ベースの影響額は前期末のソフトウェア開発における仕掛残高+ α 程度と想定している。

Q. 2010年3月期会社計画の達成に向けた費用コントロールの施策について教えてください。また第4四半期以降において増大する費用および、一時的に発生する費用の有無等について教えてください。さらに、継続的に取り組まれている費用抑制等の施策があれば教えてください。

A. まず前年比較において費用の増加要因としては、期初想定通り次期システムの開発・導入関連および年金関連費用等である。これらについては四半期毎の継続的な増加要因となっている。そのため、それらを抑えるべく経費の効率的支出に取り組んでおり、第3四半期においては相応の金額を抑制している。この販管費抑制の動きは継続的に第4四半期もおこなっていきたいと考えている。

Q. ERP の売上高を教えてください。

A. 第3四半期累計（億円）

	SAP	Oracle	ProActive		
08年度：	63	15	36	= 合計	114
09年度：	49	18	44	= 合計	111

以上